

もみじ

—広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 豊田和司

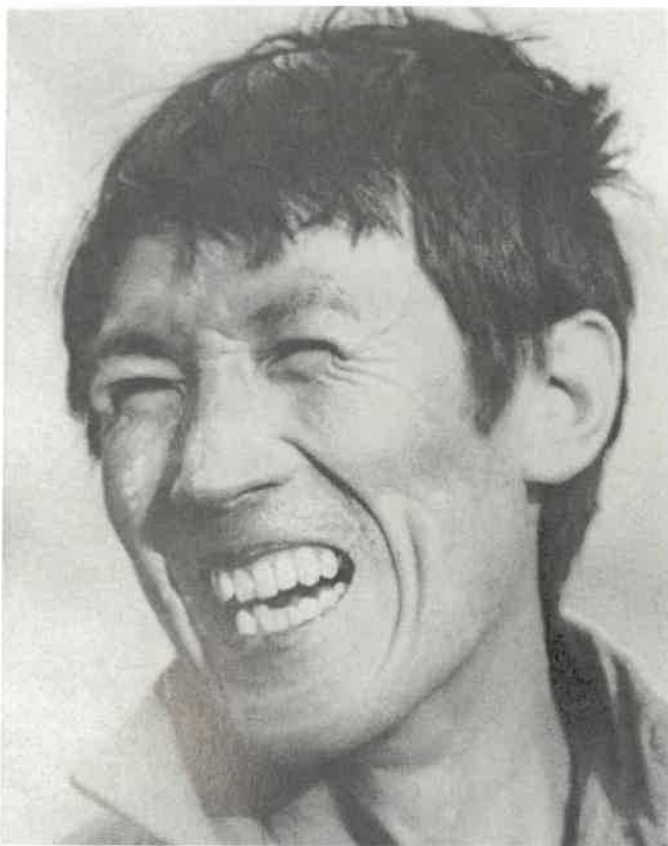
本号内容

1. ひろしま「山の日」県民の集い (05/31-06/01 三倉岳)
2. SC 中国地区ユース選手権 2025 山口大会 (06/21YMfg 維新セミナーパーク)
3. 県民ハイキング (06/08 阿多田島)
4. ハイカーの為のロープワーク講習会 (05/25 三篠公民館)
5. クライミングスクール (06/08 三倉岳)
6. 岩稜歩きスクール (06/22 三倉岳)
7. 無雪期救急法講習会 (06/28-29 南区民文化センター)
8. 岳連短信 (寄贈御礼、5-6 月の予定)

彼らの中から、ヨーロッパアルプスやヒマラヤを目指し、実際に遠征するメンバーを多く輩出し、広島は日本中から注目を集めておりました。今回のパネル展では、その中から3名のクライマーを紹介しております。彼らが残した足跡、高い精神から吹き降ろしてくる風が、今も我々を鼓舞してやみません。ご高覧くださると幸いです。

ひろしま「山の日」県民の集いが、今後とも更なる発展をすることを祈念し、あいさつとさせていただきます。

三倉岳休憩所に展示された3枚のパネル



1981年7月、ムスターグ・アタにて

1. ひろしま「山の日」県民の集い報告

ごあいさつ

会長 山田 雅昭

第23回ひろしま「山の日」県民の集いに、弊連盟の会員は三倉岳に集まることになりました。三倉岳は広島県下では、天応と並ぶクライマーの聖地とされています。古来多くのクライマーたちがここに集い、互いに切磋琢磨し、そのクライミングの技術を向上させてまいりました。

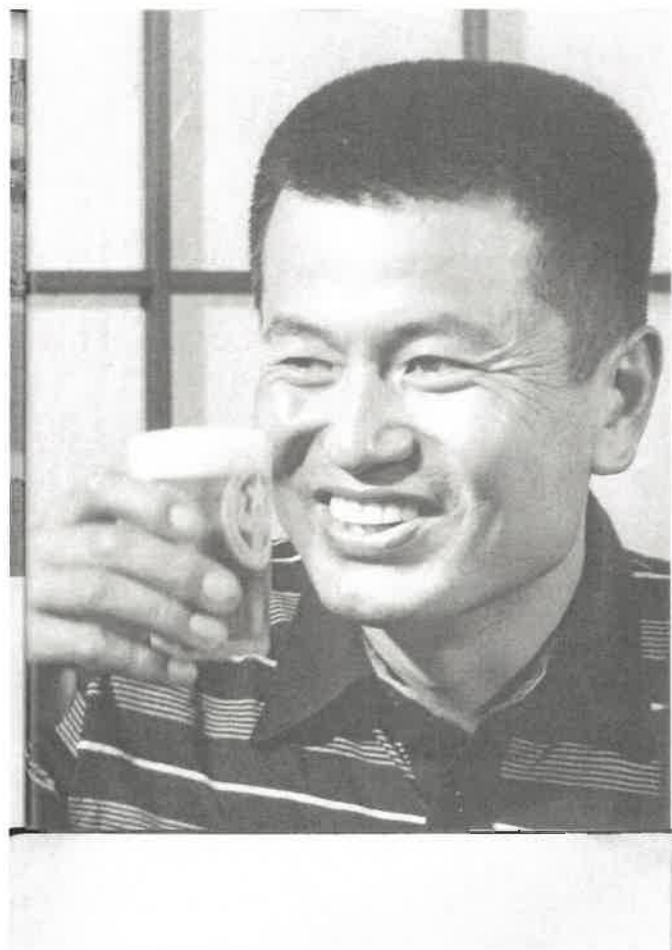
週休二日が当たり前でなかった、昭和30年代、40年代、トレーニングのために土曜日の夜 JR 玖波駅から歩いて、または走って入山し、日曜日クライミングのあと、また歩いて、または走って玖波駅まで帰るというハードな行程をこなす会もありました。このたび、その足跡をたどり、玖波駅からここ三倉まで歩く企画も計画されています。

寺西 洋治（てらにし・ようじ）

高見和成（たかみ・かずしげ）

1945年、広島市佐伯区五日市町に生まれる。64年、高校卒業とともに三菱重工業株式会社広島精機製作所に入社、山岳部に入部。その後何年間は、部活動以外に自転車単独行で、大山、三瓶山、深入山、臥竜山他芸北山群、三倉岳、白木山、灰ケ峰、大万木山、比婆山登山等を行っている。67年広島山の会に入会、本格的な登山を始める。毎日昼休みには、会社の裏山である武田山(410.5m)にランニング登山後に昼食を食べてから午後の勤務とトレーニングを重ねた。国内記録では、69年唐沢岳山頂ルート(冬季初登攀)をはじめ、穂高岳連続登攀、黒部奥鐘山西壁、海谷山塊千丈ヶ岳西壁等。海外登山は、73年ヨーロッパアルプス(ドリュウ南西岩稜他)、75年カンピレ・ディオール登頂、77年日本K2登山隊(8,100mまで)、79年ラトックⅢ峰登頂、81年7月高度順化のムスタグ・アタ登頂後、8月2日中国コングル峰で松見親衛氏、嶋満則氏とともに消息を断つ。享年36歳。

1945年、愛媛県波方町に生まれる。64年、高校卒業とともに広島県呉市の東洋パルプ（現王子製紙）に入社。伯耆大山、石鎚山、北アルプス、南アルプスの山を歩き始める。67年広島山の会に入会、本格的な登山を始め、北アルプス唐沢岳幕岩に「広島ルート」などいくつかのルートを開拓。69年グランドジョラス・ウォーカー側稜、マッターホルン北壁、ドリュウ西壁などに登攀。70年から72年にかけては穂高岳、劔岳、黒部の山々に集中、冬の大タテガビン南東壁、奥鐘山西壁などにルートを開拓。その後海外登山に転じて、73年エベレスト南壁、75年カンピレ・ディオール登頂、76年ナンダ・デヴィ縦走、79年ラトックⅢ峰登頂、80年チョモランマ北壁、82年チョゴリ北稜登頂と続く。やや間をおいて、91年、当時、世界最高の未踏峰ナムチャバルワに挑み頂上直下まで達したものの、これを機に高峰から退く。93年1月、伯耆大山で雪崩事故に遭い、3日後に自力下山して話題を呼ぶ。98年2月、大山天狗沢で滑落遭難。著書に『雪の谷山の声』（悠々社1994年刊）享年52歳（「山と溪谷」2012年6月号より転載）





名越 實（なごし・みのる）

1948年、広島県安芸高田市八千代町に生まれる。66年、高校卒業とともに電電公社（現NTT）に入社。70年広島山岳会に入会。無雪期の縦走から厳冬の岩壁登攀、ヒマラヤ遠征までを実践するオールラウンドな登山家へと育つ。

77年インドヒマラヤ、バルナジ峰初登頂。81年インドヒマラヤ、クン峰西壁初登攀。84年パキスタンカラコルム、ウルタールI峰初登頂。88年チョモランマ8300mまで無酸素登山。93年インドカラコルム、アクタシ峰（南西壁より）初登頂。98年カナダバフィン島、フリーガII峰北壁初登攀。2007年中国四川省、チョンライ山系霸王山初登頂。同石笋山初登頂。2013年12月29日、単独で上高地から入山し、横尾尾根経由で槍ヶ岳に登頂した後、新穂高温泉に翌年1月2日に下山する予定が2日になっても連絡が取れず。2014年6月6日遺体で発見された。享年65歳

第23回ひろしま「山の日」県民の集いに参加して

広島三峰会 小林 響子

5/31-6/1 三倉岳で岳連主催の行事が開催された。かつてヨーロッパアルプスやヒマラヤを目指した先人達が三倉岳でトレーニングをする為に、玖波駅から山越えをして三倉入りをしていたルートを歩いたり、夜は焚火を囲んだりした。私は安藤和己さんのご縁で参加させて頂いた。以前より三倉でトレーニングをしていたことは耳にタコで知っていたので、安藤さんが歩いたルートを一緒に歩けるのかと思うと感慨深い気持ちであったが『歩かん、用事があるから午後から行く』との返事でキャンプファイヤーからの参加となった。三倉でトレーニングをして外国の山に行った人達の中で私が知っている人物は安藤さんだけだ。出会いは

知人からの紹介で今から15年前ぐらいになる。彼は既に立派なお腹で、ヒマラヤなど到底想像できなかった。ある日『バルナジ登攀 1977』という本を貸してくれた。安藤さん含む広島山岳会のヒマラヤ遠征の記録である。図鑑の様な本だが、あまりの面白さに2日で読破してしまった。今まで読んだどんな本より大きな感動を与えてくれた。涙が止まらなかった。8人のヒマラヤへの挑戦、未踏峰を全員で登頂すること。これが現実にあったことなのだと思うと、そんな偉大な先輩方がいるこの広島が誇らしく思えた。こんな壮大なスケールで山に向き合うことは私にはできないが、仲間と力を合わせて自分達なりの何かを目指してお互い切磋琢磨すること、それなら私にもできるし、そうありたいと思う。大きなことを成すには小さな積み重ねがあつてこそ。それをさせてくれる三倉岳に、そして私達に当たり前の様に安全で綺麗に整備された山を提供して下さる管理をされている方々に、改めて感謝の気持ちを持てる2日間だった。



『先人たちの三倉岳への道』感想
日本山岳会広島支部 山口美佐保

学生時代、練習で玖波駅から三倉岳まで歩いて入っていました。50年近く前のことです。ルートは違うけれどまた歩いてみたいと参加を希望しました。

変化に富んだコースで様々な歩きを堪能しました。あれこれ思案の道探し。飛び石を見定めながら繰り返

した渡渉。苦手な車道歩き。柔らかな水苔や靴がズボッとはまる泥濘んだ道。息を呑んだ伐採で荒廃した山間道。3 回転んだ苔むす水流の道。そして爽やかな風が吹き抜けるなか蒼空を背に三倉岳が現れた時、思わず「ああ」と心を奪われました。『先人』と私、覚悟や厳しさは比べものにならず『思いを馳せる』ことができるだろうか。しかし三倉岳を見た時、先人たちもこんな気持ちだったのではと思うことができました。

スタッフの方の事前整備やお心遣いとご一緒できた参加者の方に感謝です。有り難うございました。今も爽風と蒼空の三倉岳が心に残っています。



（写真提供 久保田 征治）

2. SC 中国地区ユース選手権報告

個人会員 専坊由介

6 月 21 日（土）YM f g 維新セミナーパークにて、中国ユース選手権 2025 山口大会が開催されまし

た。

通常の気候であれば、梅雨真っただ中の時期ですが、雨が降ることもなく無事開催され、私は保護者としてU-15の娘に帯同し、観戦させていただきました。

競技形式は、予選8課題5アテンプットのコンテスト方式、決勝2課題オンサイト方式で行われました。

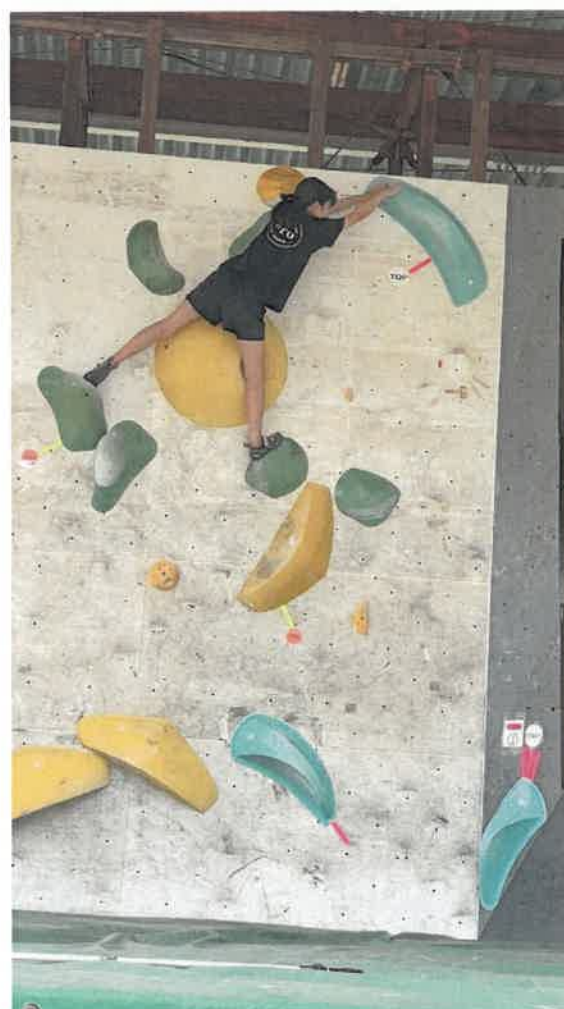
予選では限られた時間とアテンプト数で緊張感のあるなか、真剣に課題と向き合う選手の表情が印象的でした。

決勝では圧倒的な強さを見せる選手もいれば、予選順位を覆す逆転劇を見せてくれる選手もあり、見ごたえのある競技内容であったと感じます。

広島県の入賞選手の結果は U-13 男子、優勝 西颯馬選手、準優勝 小響天翔選手、U-13 女子、優勝 藤木みり選手、U-15 女子 優勝 専坊紗月選手と若年層の選手が台頭しており、今後の活躍が期待されます。

保護者としては、ベルコンプ広島等、CERO で開催されるコンペの運営スタッフをさせて頂くことができますが、若手選手の成長に関われ、こういったコンペで活躍を観ることができるのは非常に喜ばしく感じます。

最後になりますが、山口県連盟の大会運営関係者の皆様、ありがとうございました。



2. 県民ハイキング阿多田島報告

広島三峰会 宮本 由美子



阿多田島は、沿岸部の山に登ってよく見える島で、近い存在。その山に登るのも一興あると思い、昨年12月 所属する会で実施したが、好評ようだったので、この度 県民ハイキングとしても提案・実施させていただいた。

6/8(日) 小方港発 9:30 の船に乗り、10:05 阿多田港着。島は広島県の西の端にあり、かつ船賃のこと(通常1420円だが、団体割引で1300円徴収)もあり、参加者数を心配したが、34人の参加でちょっと安心。港での開会式の後、まず近くの阿多田島神社へ。今の上皇ご夫妻が、かつてハマチ養殖等見学のため訪れられたことや、豊田理事長の歴史説明に耳を傾ける。

少し山道を登り、11:00 観音山(116m) 着。周辺の展望と理事長の話の後 下山し、今日の一つのメインイベントである阿多田島灯台資料館見学。館は、職員達が昭和53年まで宿泊していた現資料館と油庫、倉庫(物置と浴室)から成り、資料館には、灯台のランプや生活用具などが展示されていた。職員は、3キロ先の灯台への油つぎやランプの清掃などに、日夜従事していたのだ。資料館から海岸線に下りて、集合写真を撮ったが、おりしもこの日6月8日は、1943年(昭和18年) 戦艦陸奥が近くの柱島沖で沈没した日。豊田理事長の提案で、全員しばし黙祷した。

資料館をあとにししばらく急坂を戻り、12:25 高山登山口。そして昼食場所の高山(204m)には12:50に着いた。歴史説明・集合写真の後、雨足が近づいているとのことで早めに下山。急坂に注意しながら14:20 林道に下りた。10分後、以前阿多田島中学校のグラウンド?であった広場に到着。用意の『しま山100選(岡山・広島・山口)』プリントをちょっと説明。個人的には、数年前 岡山 笠岡諸島の白石島(しま山100選の立石山登山)・真鍋島(映画『瀬戸内少年野球団』のロケ地)の二島を会で訪れて以来、島山、特に船を利用するのそれには惹かれているので、ご紹介した次第です。

その後、希望者、といっても殆ど全員だが、橋でつながっている猪子島ウォーキング。島にはイリコ工場

が2つあり、土日はあいにく休みだが、平日だと入手できるかも。ともあれ、15:10 港で閉会式後、15:50 の船で出航、16:20 前後 小方港に着船後、それぞれの帰途につきました。

梅雨空で、ガスっていて、周辺の島々の眺望がイマイチだったが、大した雨に降られなかったのはラッキー！ 皆さん、お疲れさまでした。

(追補) 道中でも紹介したが、1981 年制作の映画『典子は、今』の最終シーンには、当時の阿多田港周辺が



出てきます。You tube でも観られますので、ご興味のある方は是非ご覧になってください。

阿多田島での感動

タンネンクラブ

藤田 昌信

何年も山に登っていると、これまでの経験や断片的な知識が思わぬ形で結びつき、感動することが結構ある。

今回の「県民ハイキング」は阿多田島の高山、観音山を目指した。阿多田島は、30 年近く昔、釣りに憑りつかれたようにハマっていた頃の、憧れの漁場であったが、結局憧れのままで足を踏み入れることはなかった。今回、登山目的で訪れることになったのは、不思議なご縁を感じた。小方港発のフェリーには、我らハイキング仲間に負けぬほどの多くの釣り人が乗船していた。

上陸後、港にほど近い阿多田島神社で豊田さんの歴史解説があり、阿多田島が江戸時代に茶人の上田氏の領地であったことを知る。家元が我が家から徒歩圏内にある上田氏と結びついた。また、この日 6 月 8 日は、

戦艦陸奥が柱島沖で沈没した日。島内の灯台資料館から海岸へ降りて黙祷を捧げながら、50 年近く昔に 周防大島の陸奥記念館に、祖父に連れて行かれた記憶と結びついた。

あいにくの天気ながら、下山までは雨から免れた。高山山頂で昼食をとりながら、白石灯台や宮島の南側を眺めた。穏かな瀬戸内の低山であったが、いろいろな感動を呼び起こしてくれた山行であった。

阿 多 田 島 感 想

広島やまびこ会 平樹 洋子

梅雨入り間近、予報を気にしながら広島駅に。いつものメンバーが見えなくて不安でしたが、平田さんに会えてスタートの気持ちになりました

玖波駅～こいこいバスで小方港へ。受付後フェリーへ。ハイキング全体で 34 名でやまびこ会は 8 名参加。阿多田島到着後開会式。

前皇太子、皇太子妃の行啓記念碑のある阿多田島神社^{（註）}をお参りし観音山へ。程なく頂上、下り返し阿多田島灯台記念館～館の展示品もそこそこに道端のビワの実を味見！大きくないけど瑞々しく美味しかった～□です。

さらに灯台下の海岸まで下り、戦時中 柱島の沖で丁度今日 6 月 8 日 12 時 10 分に爆沈した軍艦陸奥にほぼ同時刻に黙祷をしました。この美しい瀬戸内海も 80 年前に修羅場があったのだ、と重い気持ちになりました。

この頃霞がかかった島影にポツポツと雨が落ちてきましたが、本降りになることは無く、高山へ。13 時頂上で昼食。阿多田防災コミュニティグラウンドまで少し急な下りを降り、橋で連結されていない島など瀬戸内の島の説明がありました。

その後対岸の橋の架かっている猪子島へ、宮島を裏側から眺めて、いつも右側に見える岩船山が左に見え変な気分になりました。

三峰会の宮本さんの案内、歴史の解説の豊田さんと、とても楽しいものでした。

玖波駅の帰りではメンバーから、ギリギリセーフのお天気、良かったね！の言葉が聞こえてきました。

阿多田島再訪

広島三峰会 高嶋 智恵

小方港から30分ほど船に乗ると「あたたかい 阿多田島」と彫られた石碑が迎えてくれる。阿多田島は今回が2度目でコースもほとんど同じ。前回は前年の冬、今回は梅雨入り前の6月だ。

阿多田港に30余名の参加者が到着し3グループに分かれてスタート。まず、阿多田神社で、山岳連盟の豊田和司理事長から島の歴史を聞く。急な階段を降り、観音山へ。側道に入ったところで私たちの会の宮本会長から映画「典子は今」に出てきた友人宅がこの辺りだと聞く。モノクロのここ「あ、あの場面」。映画の最後のシーンが思い出される。

観音山は標高105メートルで低山専門の私には程よい感じである。頂上には、漁師の網にかかった観音像が、その漁師の夢枕のお告げで平戸の方向に祀られている。豊田さんから「夢」のお話、古の人々は夢を何かの「お告げ」とし生活していたことが窺われて興味深い。

登山口まで戻り、灯台資料館へ向かう。目線の上には鈴なりのびわ、下には鮮やかな紫陽花の花。白石灯標の退息所であった資料館を見学し、油庫のある海岸で集合写真を撮る。また、1943年6月8日に柱島沖で爆沈をした戦艦陸奥の犠牲者へ黙祷。その後 海拔0から204メートルの高山へ。

残念ながら 山頂から前回の様な瀬戸内の景色と白石灯標は見られなかったものの、これも風情かと猪子島の龍宮神社へ向かい、阿多田港に戻っての閉会式で終了。周辺の海の景観に、再び、映画の最終シーンを思い出す。「典子」のように逞しく聡明なサリドマイド男子のことが思い出される。私のクラスメートだ。

（一般参加） 福重 知恵子

初めての島ハイキング。上り坂が多く、しんどかったですが、海に囲まれた島の魅力を、満喫しました。



4. ロープワーク講習会報告

指導部担当副会長 森本 寛

5/25(日)、講習場所：三篠公民館 研修室、人数：8名
（スタッフ含）

今年で2回目の「ハイカーの為のロープワーク講習会」を実施しました。クライミングスクール等で指導している、確保を主にしたロープワークと違い、タープやツェルト張りに使える、ロープの結び方などを講習しました。みなさん、ロープワークに興味を持って取り組まれていました。

ハイカーのためのロープワーク講習会に参加して
マツダ親和会山岳部 常重 祐美

私が所有している山岳用ソロテントのガイロープは、購入時から既に支点を自由に動かしながらもしっかりと固定できる、優れた結び方でセットされています。これをほどいてしまうと二度と元に戻せないと思い、慎重に扱ってきました。

本講習会が開催されることを知ったとき、まさきに思い浮かんだのはこのソロテントのガイロープでした。

自分でもその魔術のような結び方を習得できるかもしれない、いよいよ万が一ほどこけても問題なくなるのでは、という期待で、参加を決めました（もちろん山歩きに役立てたい思いもあります）。

3時間の講習はあっという間で、馴染みのない横文字に混乱しつつ、頭と指先をフル稼働させて必死に取り組みました。これまでちょうちょ結びと固結び、そして「気合い」で乗り切ってきた私からステップアップ！

また、ロープを操る中で、講師の方々から何度も飛び出した「ここをコロす」という独特な表現には、最初こそ「コロしますか……」と静かに戸惑いを覚えましたが、慣れてくると「コロすのですね！ OK、誠心誠意コロします！」と勢いよく乗っかりたくなる瞬間も。しかし、そこは意味がわからないまま使わなくて良かったです。帰宅後しっかり調べて、ロープワークの技術用語であることを知りました。なぜか安心しました。

研修の集大成は、近隣の公園に足を運んでの実践です。皆で協力して、レジャーシートを3枚使った簡易ツェルトを作り上げました。習ったばかりのロープワークがどんどん活用される面白さと達成感は、まさに参加してこそ得られるものです。時折、遊びに駆け回る子どもたちが興味津々の眼差しでこちらを見つめてくるのを感じましたので、オーラで「こちらの遊びも超楽しいぞ！」と語りかけたつもりです。

最後に、講師の皆様には丁寧なご指導をいただき、ありがとうございました。せっかく習った技術。繰り返しの練習をせねばと、帰路に早速、駅近くの100円ショップに立ち寄り練習用のロープを手に入れました。復習に努めます。



（写真提供 高田 正剛）

5. クライミングスクール報告

指導部 塩田 徹

第3回 6/8(日)、山城：三倉岳 ABC フェース、人数：11名（スタッフ含）

トップロープビレイとリードビレイの違い、リードクライミングの注意点を説明した後旧Aフェースでスタッフによるデモを行いました。3人一組となり、トップロープで確保した状態で擬似リードクライミング、リードビレイの練習を旧Aフェイスノーマル、Bフェイスノーマル、じゃじゃ丸、ゴン太の4ヶ所で行いました。昼前に雨が降り始めたので旧Aフェース、Bフ



ェイスは撤収 ボンタを加えた3ヶ所に変更しました。2時過ぎに再び雨が降り始めたのですべてのルート回収し、樹林帯でセカンドビレイの講習を行いました。

第3回クライミングスクール 報告

報告者 K. K.

令和7年6月8日（日）、第3回目のクライミングスクールは、第1回、第2回に続き、三倉岳での実施でした。早朝から天気はどんよりとした曇りで、講習途中からの雨が心配でした。

私と妻は初めてのスクール参加で、クライミング自体もスクールの中の3回目、全くの初心者です。知人からこのスクールのことを聞き、クライミングを経験しておけば、これまで続けてきた登山にも必ず役に立つはずと、受講を決めました。ところが受講者の方々は、すでにスクールを経験した方がほとんどで、とにかくスクールの進行に迷惑をかけないようにと心掛けています。

第1回の講習の後、ダブルフィギュアエイトノットを覚えるためにロープを買い、テレビの前に置いて練習しました。第2回の講習では、午後途中で雨が降り、ロープワークの練習となりました。その時、その場では全力で覚えようとするのですが、次々に手順が重なるとこなすだけで精一杯となり、次の日には結び方を思い出せない、復習しようにも名前を思い出せなくてできないような状況でした。本日、3回目の講習にも不安いっぱいでした。

集合してロープをザックに入れ、6合目まで歩くにも、暑さと湿気で汗だくです。最初の1本は旧Aフェースのノーマルルートでした。意気込んで取り付くも、最初の2mも登れず、力尽きました。まだまだ何mも残っていて、その経験ができないと考えるととても残念でした。

気を取り直して、2本目。Bフェースのノーマルルートに臨みましたが、斜めにジリジリと行けただけで、うまく探せば岩の陰にホールドがあったようなのですがそれも分からず、ここも2mも登れず終わりました。雨がパラついて少し岩が濡れていたとはいえ、与えられた課題のルートをまったくこなせない状況で

した。

3本目は少し移動してゴンタルート。ここも最初から苦戦で、ロープに助けられながら何とか上までたどり着きました。難なく登れる人の様子を見ると、なぜあの場所ですつま先のグリップが効いて踏ん張れるんだろうと不思議でした。

雨が強くなり、達成感なくクライミング終了。木の下でマルチピッチに向けてのロープワークの講習となりました。どんな場面？トップとリード？ビナ？ねじるのは右に？左に？何とかヒッチ？一つ一つの用語にも理解に時間を要し、とにかく、必死でついていきます。今回は前回の反省を踏まえ、妻が一部動画を撮影して、復習できるようにしました。

クライミング教室は、私たちにとって新たな刺激に満ちています。考えてみれば日常生活では“力尽きて落ちる”なんて経験はまずありませんし、にっちもさっちもいかない状況に陥って、一本のロープで人に頼り切ることもありません。力の限界までいけるかどうかの自分との対話、あきらめ、力不足・経験不足の反省など、普段にない様々な経験を一度に味わえると思っています。登りきる達成感はまだ当分無理そうですが。

次の講習では、復習もしっかりやって迷惑を掛けず、1cmでも高く登れるように備えたいと思います。指導してくださる講師の方々、次回もよろしくお願いいたします。



6. 岩稜歩きスクール報告

指導部担当副会長 森本 覚

第3回 6/22(日)、山城：三倉岳、人数：17名（スタッフ含）

6/22(日)第3回目は岩渕の予定でしたが雨の予報の為、三倉岳に変更しました。前回の復習のあと、3班に分かれて入山しました。アプローチ道にて「立木を利用したラッペル」「ビレイ器で確保しながらの岩登り」「支点を取りながらの同時登攀」の課題を実施しながら中の岳まで登りました。その後、雨対策として炊事棟に移動しロープワークの講習を行ないました。

感想 高橋 和仁

6/22(日)、3回目のスクールは岩渕山の予定でしたが、前日の天気予報で急遽三倉岳に変更となりました。第一回は雨で三倉岳の炊事等でロープワークと少し山に入りフリクションヒッチで確保しながらの急斜面登りとラッペル練習、第二回は所用で欠席と今一つ乗れていない感じではありましたが、今回の三倉岳では中の岳までをバリエーションルートで登る内容、何とか天気も持ってくれて良かったです。

まず、炊事等で本日举行うビレイ器を用いたセカンドの確保、コンテ歩行での中間支点でのロープ掛替を予習し、いざ山に入ります。4合目 AB 横断道から下の岳東面に向かう急登のバリエーション道に入り、グングン標高を稼ぎます。下の岳東面からラッペルで下り B コースに合流となるのですが、今回のラッペルは岩稜帯でなく土の急斜面を下るケースでした。まず、30m ロープ2本を八の字でつなぎ、結び目から末端は40cm程度確保、立ち木に掛けてビレイ器で下降します。ロープダウンも投げるのではなく、スルスル下す手法で、状況に応じ色々なやり方があることを解説頂き勉強になります。

その後、時間節約で源助方面の土壁登りはパスして7合目まで B コースで向かい、中の岳マルチコースのスタートテラス下の西側までバリエーションルートで向かいます。



(写真提供 森本 覚)

そこから、本日メインの岩場にてセカンドビレイで登攀、クライマーアプローチ用のロープやステップがある岩場ですが、極力それらを使わずよう挑戦しました。ここは待ち時間も長く、私たち最後の班はゆっくり行動食を食べる余裕がありました。ようやく順番が来て班のトップで登らせて頂き、セルフ、セカンドビレイ、班のメンバーへ手順の説明と順番が来てからは休む間が無くあっという間に時間が経ちました。

全員が登りきったところで、コンテで中の岳頂上を目指します。こちらにもトップをさせて頂き、素人ではありますが中間支点を構築しながら、頂上直下の登山道合流地点まで進みました。

支点の作り方、ポイントなど今後も積極的に学んでいきたいと思います。

山頂で水分補給の休憩と記念撮影を終え、下山。

再び炊事等で、次回の沢で多用するインラインエイトでのセルフとムンターでのビレイ、ラッペル途中での停止動作の実習です。特にラッペル途中では垂直壁とある程度足場が確保できているところ、使用するロープ種により、中通しとミュールを使い分ける点が勉強になりました。足場が確保できているところではロープを足に絡ませる停止法は役に立たないことも、なるほどです。

最後に、回毎に班メンバーを違って、まだあまりお話できていないスクール生とも交流を深められればと思います、皆様よろしくお願い致します。そして、毎回懇切丁寧にご指導くださるスタッフの方々、引き続きご指導のほど、よろしくお願いいたします。

感想 薙野 美穂

6月岩稜歩きスクールは岩淵山の予定でしたが、梅雨前線の動きと重なってしまい雨の確率が高いので急遽三倉岳に。アプローチ道をロープを使いながら、中の岳に登る事になりました。4月5月とスタッフの皆様丁寧に繰り返し教えて頂いているロープワークですが、真剣に頭に叩き込むつもりで聞き、その場では理解したつもりになっていますが、いざ実践となると頭の中が真っ白になってしまいます。1つ新しい事を覚えると、前の事を忘れてしまうという情けない結果になっています。安全に登る為の技術を学びながら

足場の悪い所も慎重に歩き、雨に会う事もなく中の岳の頂上に立て雄大な岩肌や、素晴らしい景色に感動しました。

下山後は炊事棟で来月の沢登りに向け、インラインエイトノット、ミュールノット、オーバーハンドノットなどなど、また新しいカタカナに混乱し戸惑ってしまいました。

自宅でもしっかりと復習し来月も精一杯頑張ろうと心に誓った一日でした。





（写真提供 森本 寛）

7. 無雪期救急法講習会報告

普及部担当副会長 森本 寛

6/28(土)～29(日)、研修場所：広島市南区民文化センター 大広間、人数：17名

レスキュー研修会と隔年で実施している救急法研修会ですが、今年は日本赤十字社指導員の方に講師をして頂きました。1日目は「赤十字基礎講習」の内容で、手当の基本と一次救命処置を、2日目は「山の救急法」の内容で、座学と実技を交えての講習を行ないました。山の救急は、隔離された環境、限られた資材で行うため、現場に居合わせたメンバーの行動が重要となります。参加された方は全員、それを理解され真剣に受講

されていました。

感想 渡邊 晋次

令和7年6月28日（土）、29日（日）に山岳救助法研修会に参加しました。

日本赤十字社のベテラン指導員の方が講師を務められ、17人が受講しました。

初日は日本赤十字社の救急法基礎講習として実施され、座学と胸骨圧迫（心臓マッサージ）・AEDの実習、二日目は三角巾、バンダナ、簡易シートなどを用いた手当法の実習、山の危険（悪天候、動植物、高山病等）の回避方法等について学びました。

私は、救急法について全くの素人で、山の経験も浅いのですが、講師の方は、現場で役立つポイントを、分かり易く、また、なぜそれが重要なのか、理由を明確に説明してくださったので、納得しながら学べました。実習では、何度も何度も繰り返し練習出来たので、「上達できた！」と実感でき、他の受講者とチームを組んで練習したので、様々な話もできて、終始、楽しい研修でした。

以下、印象に残ったことをいくつか紹介します。

最も印象に残った言葉は、「その時に行った措置が最善だったと考える」です。人は、救命措置後、「もっとこうしておけば…」と後悔しがちで、私も措置をためらうかとも思いましたが、この言葉は、すぐく勇気を与えてくれました。万一の際は、安全を確保した上で勇気をもって救命措置を行いたいと思います。

人形を使った胸骨圧迫とAEDの実習も貴重な経験でした。想像よりも強く、早く圧迫することに驚き、体力勝負（始めたら蘇生するか救急隊員に引き継ぐまで止めてはならない）と実感し、「大切な人が…と考えたら頑張れる！」という講師の励ましが心に響きました。日常生活で家族や知人を守る力にもなる非常に役立つ実習でした。

山での危険回避では、「体温維持」のための「濡れ（雨・汗）」と「風」の対策が重要と学びました。特に、手足の先や頬には体温調節スイッチがあり、夏でも高所、強風、長時間の救助待ちでは、汗でぬれた靴下も替えるといった話は、大変勉強になりました。

その他、雷の避け方、アナフィラキシーショックへの対処など、知らなかったり、想定していなかったりした危険への対処を学べ、メモをとりました。

登山は計画からと言うように、事前の調査やゆとりある計画が重要なことはもちろんですが、いざという時のために、出来る範囲ですが、自宅で復習し、一緒に山に行く若い方にも伝えたいと思いました。

講師の方、主催された連盟の方、ありがとうございました。



(写真提供 森本 覚)

8. 岳連短信

1. 寄贈御礼

- (06/22) 三原山の会『筆影』No. 544 (7月号)
- (06/25) 福山山岳会『会報』7月号
- (06/26) 広島やまびこ会『やまびこ』822 (6月号)
- (06/27) 広島山稜会『峠通信』792 (6月号)

2. 5月～6月の行事予定 (実施済も含む)

- 05/11 (日) 県民ハイキング・タンネンクラブ (阿武山)
- 05/27 (火) 県民ハイキング調整会議
- 05/31-06/01 (土日) ひろしま「山の日」県民の集い (三倉岳)
- 06/05 (木) 日韓親善協会総会・会員の夕べ (山田・大田)
- 06/08 (日) 県民ハイキング・三峰会 (阿多田島)

06/10（火）国際部打ち合わせ韓国大学生交流

06/21（土）スポーツクライミング中国地区ユース

選手権2025 山口大会

（YMfg 維新セミナーパーク＝旧・山口県セミナーパーク）

06/22（日）2025（令和7年）年度JMSCA 総会

06/28-29（土日）無雪期救急法講習会（南区区民文化センター）

07/09（水）第4回運営会議

編集部より

- この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。
- 会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。
- この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。